

## 研究区分：若手研究

## 接骨院の分布と人口分布、将来の推計に関する調査

氏名 泉 晶子【所属】柔道整復学講座

【背景・目的】昨年度本助成金において、亀岡市において医療機関(接骨院を含む)や公共交通機関と人口分布・地域住人の年齢階層について調査した結果、いわゆる山間部で高齢者が居住する地域が偏在していることが示された。そこで今年度亀岡市と福知山市の2つの地域を3段階に分けてより詳細な調査を行った。①過去の接骨院に関する情報(開業・廃業などの推移)を取得し、人口分布・地域住人の年齢階層の変化に関するデータから、過去から現在にかけて人口と接骨院がどのように推移してきたのかを調査した。②2040年までの将来推計人口のデータを用いて、現在の接骨院の立地が2040年時点でどのように変化するかを予測した。さらに③亀岡市・福知山市の立地環境が異なる接骨院に、来院している患者の住居地域についてアンケート調査を予定していたが、コロナ禍の影響もあり十分な協力が得られる院がなかったため、①～②で得られたデータを合わせることで、今後接骨院が必要とされる立地について検討を行った。

## 【方法】

対象地域：亀岡市、福知山市

データ収集：対象地域の総人口・年齢階層別人口は総務省発表の国勢調査小地域統計より得た。接骨院の立地情報は2005年～2015年のタウンページから得た。2020年の立地情報はiタウンページを利用して得た。将来推計人口指標値は国土交通省が発表している国土数値情報サービスより得た。

分析方法：上記の方法で得られた住所情報に、東京大学空間情報科学研究センターがリリースしているCSVアドレスマッチングサービスを利用して、緯度・経度の位置情報を得た。①地理情報システムソフト Arc GIS(ESRI社製)を用い、行政区画データに総人口の分布立地情報をマッピングした。2005年の国勢調査の結果に2005年時点の接骨院の情報というように5年刻みで地図上にマッピングした。②将来推計人口は、2010年人口数を100とした場合の2040年の人口指数を求め、国勢調査2010年上にマッピングした。

【結果・考察】①において亀岡市と福知山市を対象に調査を行ったが、福知山市は2005年から2020年にかけて新たに開設された接骨院は2軒のみであったため、本結果では亀岡市についてのみ記載する。図1、図2において、人口は一部地域において2005年に比較し、2015年で増加している傾向がうかがえる。接骨院は比較的人口の多い地域にも新たに開設されているが、2020年時点での立地をみると、人口の多い地域のみならず、駅の周辺、線路に沿った地域に新たに立地しているのが分かる。この背景として接骨院の開業場所を考える際に人口数のみならず、電車のアクセスの良さを考慮している可能性がうかがえる。つまり人口が多い住居地域近隣ではなく、例えば通

勤・通学・買い物などのついでに接骨院を利用することを想定していることが推察される。

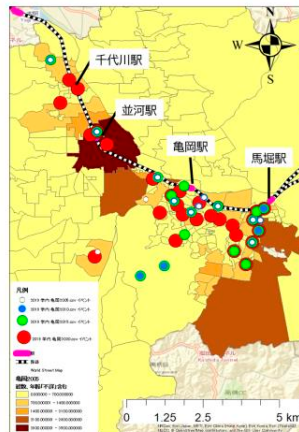


図1 2005年の人口と2005年から2020年までの接骨院の立地

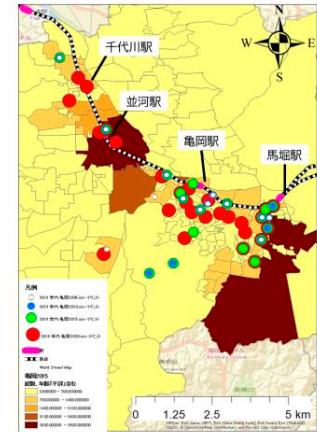


図2 2015年の人口と2005年から2020年までの接骨院の立地

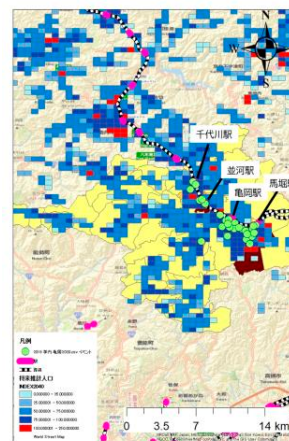


図3 2010年の人口と2040年の接骨院の立地、2040年の将来推計人口指数

図3より、2010年の人口より2040年の人口が増えると推計される地域はほとんどなく、多くが50-75%減少するとされており、2020年時点で立地している接骨院も多くが人口が減少するとされている地域に立地している。また将来人口が増えるとされている地域には現在接骨院の立地はみられず、今後接骨院の需要が出てくる可能性がある。

結果のまとめとして、亀岡市の2005年から2020年の接骨院の立地推移から、住居地域ではなく電車などのアクセスなどを考慮して立地場所を検討していることが推察された。しかし今後の接骨院の立地を考える際には現在の人口だけではなく、将来の人口も考慮して立地場所を検討する必要があることが推察され、これらの結果を明瞭に図示することができた。今回は実施できなかったが、接骨院に来院する患者特性(住居地域・年齢層)を考慮することで、今後の接骨院が必要とされる地域の傾向を明らかにすることができると思われる。

柔道整復師養成校では教育課程に接骨院の経営に関する授業を行うことが求められている。今後このような技術を用いて学習することで学生が経営に興味を持つ一助として活用したい。

【論文及び学会発表】  
発表なし